

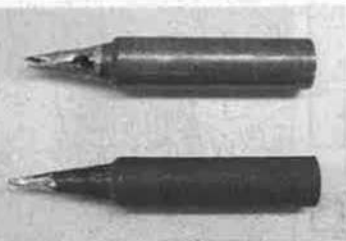
こて先2倍超長寿命化

ハンダ付けロボ用先行発売

アルファ技研

【神戸】アルファ技研（神戸市中央区、古澤達雄社長、078・335・5581）は、熱伝導性やぬれ性など性能は従来と同等で、2倍以上長寿命化を実現したハンダこてのこて先を開発した。8月下旬にハンダ付けロボット用を先行発売し、市場の動向を見ながらハンダこて用も投入する。市場価格は従来品と同等になる見込み。3年後に5億～8億円の売り上げを目指す。

新製品は銅や鉄、セラミックス粉末を混ぜて成形、焼結して作る。配合バランスの最適化が難しく、開発に3年かかったという。現在の主流は銅を鉄メッキした製品。鉛フリーハンダを溶かした450度Cの溶解槽に浸す実験で、従来品は20時間で穴があく溶食が起きるが、新製品は40時間でもほぼ変化がなかった。ハンダ付けロボットやハンダこての大手メーカーの耐久性試験もクリア



アしており、国内ではこれらのメーカーにOEM（相手先ブランド）供給し販売する。2012年度中には代理店を通じた海外販売にも乗り出す考

従来品のハンダこてのこて先は、耐久性実験で20時間で溶食が起きた。アルファ技研が開発したこて先は、40時間でも溶食がない

え。

近年は溶融温度の高い鉛フリーハンダの普及で、消耗品であるこて先の交換サイクルが短くなっている。特にハンダ付けロボットでは交換頻度の増加による稼働率低下が課題になっていた。